九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

imperfecto de cortesia y modestiaについて

山村, ひろみ
Kyushu University

https://hdl.handle.net/2324/1932620

出版情報：イスパニカ. 42, pp.24-35, 1998-12. Japanese Association of Hispanists
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

イスパニカ42（1998）

imperfecto de cortesía y modestia について*

山村　ひろみ

スペイン語の imperfecto には imperfecto de cortesía y modestia（以下，婉曲の imp.）と呼ばれる用法がある。この用法は imperfecto が使用されているにも拘わらず，その表す事態が発話時に言及するという点で特異である。本稿は，この婉曲の imp. の実態を観察し，その結果をもとに，同用法が生起するための合理的なメカニズムを考察していくことを目的とするものである。

1. 先行研究の解釈

まず，先行研究における婉曲の imp. の扱いを見てみる。従来，この用法については，imperfecto に対する解釈の違いが如実に反映された，アスペクト的観点からの説明と時間関係的観点からの説明が行われてきた。このうち前者の代表と思われるのは，次の Gili Gaya（1979:161）である。

> "El aspecto de la acción inacabada explica también que se use este tiempo en el lugar del presente, en el llamado imperfecto de cortesía. […] Enunciamos modestamente nuestra pregunta o nuestro deseo en imperfecto, como algo iniciado cuya consumación o perfección hacemos depender de la voluntad de la persona a quien nos dirigimos."

この説明によれば，婉曲の imp. が現在形の代わりに用いられるのは，その未完了アスペクトによって，いったん開始された当該事態の完遂が聞き手の意向に依存しているかのように解釈されるからということになる。

他方，時間関係的説明の代表としては，以下の Rojo（1974:118）があげられる。

> "La irrealidad de lo expresado me parece el significado fundamental conseguido mediante la dislocación del sistema temporal en el sentido de usar formas de anterioridad para indicar una relación de simultaneidad. […] hay tres usos que parecen responder directamente a esta transferencia de formas: los llamados "de cortesía", "prelúdico" e "irreal"".

上の説明によれば，発話時事態の婉曲用法として imperfecto が用いられるのは，それが同時関係を示すために前時性の形式を使うという時制体系のズレを利用した非現実用法のひとつだからということになる。

この二説のうちどちらがより有効なのか，それとも，両方とも無効なのか。それを判断するには，まず，婉曲の imp. の実態を把握し分析する必要があろう。そこで，次節ではこの用法の実態観察を行なう。

2. 観　察

婉曲の imp. は，それが出現する文のタイプにしたがって疑問文，１人称平叙文，意見提案文という３つのグループに分けることができる。以下では，このグループごとに問題の imperfecto がどのような実態を見せるのかを観察していく。

2.1. 疑問文

１）¿ Qué deseaba usted ? (Gili Gaya 1979:161)

２）¿ Me llamaba usted ? (Fernández Ramírez 1986:270)

疑問文に出現した婉曲の imp. は，以下にあげる理由から，上でみた従来の説明では解釈しにくいと思われる。

まず，アスペクト的観点に基づく説明から見る。この説明によれば，婉曲の imp. の含意する丁寧さは，話者が当該事態の完遂の是非を聞き手に委ねることによって生じるものであった。しかし，これを１），２）のように聞き手が主語となっているような文に適用すると，それは却って発話時の状況を無視した聞き手に対して失礼な表現になってしまうという問題が生じる。

時間関係的説明にも問題はある。Rojo によれば，婉曲の imp. とは基準時と同時関係にある事態をあえて前時関係を示す形式で表したものであるが，後で見るように，この前時関係は imperfecto のみならず pretérito によっても表出可能なものである。ならば，pretérito も imperfecto 同様，婉曲の一形式として用いられることが予想されるが，実際にそのようなことが起こることはない。なぜ pretérito は婉曲の用法として使用されないのか。Rojo の説明はこの問いに対して答えることができないのである。

次に，疑問文における婉曲の imp. の出現環境を見る。先行研究が言うように，婉曲の imp. が presente に等しいならば，それは専ら発話時に言及した環境で出現することになるが，果してその実態はどうなのか。それを検証するた

めに，以下のインフォーマント調査を実施した。つまり，3)～5）のような文脈を提示した上で，問題の疑問文を発話するとしたら a) presente, b) imperfecto のどちらを選択するかを問うたのである。インフォーマントは3人で，複数回答も可とした。

3）Tú entras en un bar. El dueño del bar te pregunta lo que vas a tomar diciendo: a) Buenas tardes, ¿ qué desea usted ? ○ 2/3 b) Buenas tardes, ¿qué deseaba usted ? ○ 1/3 △ 1/3

4）Tú entras en una verdulería. Pero como el dueño está atendiendo a otra señora, no puede atenderte. Y después de haber salido la señora, el dueño se dirige a ti y te pregunta lo que vas a comprar diciendo: a)Señora, ¿ qué desea ? ○ 1/3 b)Señora, ¿ qué deseaba ? ○ 3/3

5）Tú eres secretaria. Tu jefe te llama desde su despacho, pero no puedes contestarle porque estás hablando por teléfono con un cliente muy importante. Después de colgar el teléfono, vas corriendo a su despacho y le dices: a) Perdón, ¿ me llama usted ? × 2/3 b)Perdón, ¿ me llamaba usted ? ○ 3/3

インフォーマント調査の結果によれば，1）と2）では imperfecto が出現する環境に違いのあることが分かる。1）は3）のような発話時に言及した状況でも出現することができるが，2）は5）のように何らかの形で過去時に言及した状況で使用されるからである。しかし，1）は常に発話時に言及するわけではない。3)，4）の結果からすると，それも過去時に言及した文脈で用いられるのが一般的であり，発話時に言及した文脈で出現することは少ないからである。以上のことから，疑問文に出現する婉曲の imp. は必ずしも発話時事態に言及するわけではないと言うことができる。

さらに，婉曲の imp. と condicional との関係も見ておきたい。先行研究ではしばしば婉曲の imp. と婉曲の condicional との置換性が指摘されるからである[1)]。しかし，本稿のインフォーマント調査の結果を見る限り，少なくとも疑問文に出現する婉曲の imp. が condicional に置換されることはないと言える。以下のように，1）を condicional に置き換えた6）が1）と同じ文脈で用いられることはないことが確認されたからである。

6）Buenas tardes, ¿ qué deseaba/#desearía usted ? [2)]

2.2. 1人称平叙文

このグループは7)～10) が示すように，主語が1人称でかつその願望や要求を表した平叙文に出現した婉曲の imp. からなる。

7) Iba a preguntarle una cosa, María. (Gutiérrez Araus 1995:54)

8) Venía a pedirle un favor, D. José. (Ibid.)

9) Quería pedirle un favor. (Rojo 1974:119)

10) Quería una chaqueta de piel. ¿ La tienen ? (筆者作成)

アスペクト的観点に基づく説明によれば，婉曲用法で imperfecto が使用されるのは話者の願望・要求が聞き手の意向に依存した形で表されるからということであったが，ここでもその主張は受け入れがたい。なぜなら，もしそれが正しければ，本来 imperfecto で表出されるのは不定詞部分になるはずなのに，以下の例が示すように，実際にその部分が婉曲の imp. として出現することはないからである。

7)' #Le preguntaba una cosa, María.

9)' #Le pedía un favor.

また，imperfecto の未完了性に基づくアスペクト説に従えば，その最小対である pretérito によって表出された事態は，imperfecto の場合とは逆に，常に当該事態の完遂を表すことが予想されるが，それは11) が示すように，必ずしも pretérito の実態とは一致していない。

11) Giovanni, sin pensar, se acercó corriendo y de pie, frente al doctor, quiso decirle: "[…]", pero se hizo un nudo en la garganta.
(K.Miyazawa[trad. M.Watkins]: *Tren nocturno de la vía láctea* 67)

さらに，このグループの imperfecto の出現環境も問うことができる。

12) Tú tienes un asunto sobre el que quieres hablar con María, tu jefa, pero como ella está muy ocupada, no puedes localizarla. Un día, por casualidad, te encuentras con ella en el pasillo y le dices: a)Voy a preguntarle una cosa, María, ¿ tiene tiempo ? ○ 1/3 b)Iba a preguntarle una cosa, María, ¿ tiene tiempo ? ○ 2/3

13) Tú vas a una sección del Ayuntamiento para solicitar algo. Abres la puerta de la sección y le dices al encargado: a) Buenos días, vengo a solicitar ～. ○ 2/3 b)Buenos días, venía a solicitar ～. ○ 1/3 △ 1/3

14) Tú entras en una boutique y le dices a la señorita que te atiende:
a) Hola, quiero una chaqueta de piel. ¿ La tienen ? ○ 1

b) Hola, quería una chaqueta de piel. ¿ La tienen ? ○ 2/3 △ 1/3

上のインフォーマント調査の結果によれば，1人称平叙文における婉曲の imp. も，疑問文の場合と同様，必ずしも発話時に言及するわけではないと言える。

他方，このグループの imperfecto の condicional との置換性は大変興味深い。次の例が示すように，その中には condicional に置換できるものとできないものがあり，同様に，婉曲の condicional の中にも imperfecto に置換できるものとできないものとがあるからである。

15) Buenos días, venía/#vendría a solicitar ~.

16) Hola, quería/querría una chaqueta de piel.

17) Me #gustaba/gustaría hablar con usted. (筆者作成)

2.3. 意見提案文

最後のグループは18)，19) のように，何らかの意見を提案する際にその語調を和らげるために用いられる婉曲の imp. である。

18) A mi juicio, este chico merecía aprobar. (Porto Dapena 1989:98)

19) Algunos delincuentes, a mi juicio, debían entrar en un psiquiátrico. (Gutiérrez Araus 1995:54)

このグループの imperfecto についても，先に見たグループと同様の理由で，従来の説明は不十分である。また，インフォーマント調査の結果によれば，当該 imperfecto の出現環境，および，condicional との置換の問題に関しても，他のグループと同じ現象が起こることが確認された。

20) Tú eres profesor(a) de español y compartes una clase con el profesor A. En un examen el profesor A suspendió a un chico porque según él su comportamiento en la clase era demasiado malo. Pero piensas que ese chico no es tan malo como piensa él, así que le dices al profesor A: a) A mi juicio, este chico merece aprobar. ○ 3/3 b) A mi juicio, este chico merecía aprobar. × 1/3 c) A mi juicio, este chico merecería aprobar. ○ 2/3

21) Estás en una reunión donde se discute el tratamiento de los delincuentes. Ya han salido varias opiniones, pero estás callado porque no estás de acuerdo con ninguna de ellas. Ahora el presidente de la reunión se dirige a ti y dice: Y a usted, ¿ qué le parece este asunto ? Y le contestas diciendo: a) Algunos delincuentes, a mi juicio, deben entrar en un hospital. ○ 1/3 b)

Algunos delincuentes, a mi juicio, debían entrar en un hospital. ○ 3/3

20）のように，過去の事態に言及した文脈に出現する imperfecto は通常その事態が成立した際の状況と解釈される。そのため，20b）は話者の控えめな発言というよりは，逆に，その過去の事態に対する非難と解されることさえある。この例において condicional が選択されたのは，そのような誤解を避けながら婉曲な表現をするためであろう。一方，発話時事態に言及した 21b）には 20b）のように過去時事態の状況と解釈される可能性はない。その結果，それは問題なく婉曲の imp. として理解される。

2.4. まとめ

婉曲の imp. の実態は，次のようにまとめられる。

① 婉曲の imp. の実態は，アスペクト的観点に基づく解釈，時間関係的観点に基づく解釈のどちらによっても十分に説明されない。

② 従来婉曲の imp. と見なされてきた用例の中には，過去の事態に言及するものと非過去の事態に言及するものがある。このうち純粋の婉曲の imp. と言えるのは後者である。

③ 非過去の事態に言及する婉曲の imp. には，condicional に置換できるものとできないものがある。

これらの結果をもとに，婉曲の imp. の実態をより整合性のある形で説明するには，どのような枠組みを採用すればよいのだろうか。以下では，そのひとつとして，時間関係説の立場を取る Rojo（1974）とそれに修正を加えた山村（1996）を取り上げ，その有効性を検証していく。

3. 考　察

3.1. Rojo（1974）

Rojo（1974:73-74）によれば，言語的時性とは基準時とそれに対する方向，すなわち，その時間関係によって規定されるものであり，この考えに従って，彼は pretérito，imperfecto，presente の機能を次のように公式化した。

pretérito＝O-V　　imperfecto＝(O-V)oV　　presente＝OoV

O は origen と呼ばれ，通常，発話時と解される。また，-V，oV はそれぞれ前時性，同時性という時間関係を示したものである。従って，Rojo によれば，pretérito は発話時より前の事態を，また，imperfecto は発話時より前にある時点と同時関係にある事態を示すことになる。一方，同じ Rojo（1974:118）は，

婉曲の imp. とは発話時と同時関係にある事態をあえて前時関係を示す形式で表出する非現実用法の一つであるとも述べていた。しかし，この説明は，上の pretérito および imperfecto に対する規定と照合してみると問題である。なぜなら，彼の言う前時性，すなわち -V は，imperfecto のみならず pretérito の規定にも含まれており，その点からすれば，imperfecto 同様，pretérito も婉曲用法として使用される可能性があるにも拘わらず，そのようなことが起こることはないからである。なぜ pretérito は婉曲の用法として用いられないのか。Rojo の説明はこの問いに答えることができない。つまり，Rojo の解釈では，imperfecto の示す前時性と pretérito の示す前時性の違いが説明されないのである。

3.2. 山村（1996）

Rojo（1974）の問題点の解消を目指し，pretérito の前時性と imperfecto の前時性の違いを明確にしたのが，ここで見る山村（1996）である。それによれば，pretérito，imperfecto，presente はそれぞれ以下のように規定される。なお，imperfecto の公式にある P は既定の過去時という規準時を示したものである。

pretérito=O-V　　imperfecto=PoV　　presente=OoV

この規定に従うならば，pretérito の前時性は基準時である発話時に対する時間関係としての前時性であるのに対し，imperfecto のそれは基準時そのものが発話時より前にあることを示したものであることが分かる。

さて，この分析では，imperfecto は presente の基準時が既定の過去時 P にシフトしたものと見なされているが，これは imperfecto によって表出された事態がすべて対応する presente によって書き換えられることを意味する。また，上の分析によれば，ある事態が imperfecto によって表出されるためには，その基準時となる既定の過去時 P が必ず設定されていなければならないことも分かる。今，imperfecto に関するこれら二つの条件をもとに先に見た例を分析してみると，次のようになる。

4）imperfecto: ¿ Qué deseaba ? ― presente: ¿ Qué desea ? / P の設定：可（お客を待たせていた間）

7）imperfecto: Iba a preguntarle una cosa. ― presente: Voy a preguntarle una cosa. / P の設定：可（聞き手に会えなかった間）

7）' imperfecto: #Le preguntaba una cosa. ― presente: #Le pregunto una cosa. / P の設定：可（聞き手に会えなかった間）

19) imperfecto: A mi juicio, este chico merecía aprobar. → presente: A mi juicio, este chico merece aprobar. / P の設定：可（当該学生が落第した時）

4)，7)，19) はどれも過去の事態に言及しているので，純粋の婉曲の imp. とは言えない。しかし，これらの例に出現した imperfecto も前述の二条件の両方を満たしている点は確認しておきたい。そうすることによって特に前述の 7)' がなぜ不適切かが明らかになるからである。7)' は文法的な文ではあるが，7) と同じ文脈で用いることはできない。その理由は当該文を presente に置換した文の意味を考えてみれば容易に理解されるだろう。つまり，それは強い断定口調となり，婉曲用法の指向する控えめな表現にはそぐわないからなのである。

次に，非過去の事態に言及した純粋の婉曲の imp. を分析してみる。

3) imperfecto: ¿ Qué deseaba ? → presente: ¿ Qué desea ? / P の設定：不可 / condicional との置換：不可

10) imperfecto: Quería una chaqueta → presente: Quiero una chaqueta. / P の設定：不可 / condicional との置換：可

19) imperfecto: Algunos delincuentes, a mi juicio, debían entrar en un psiquiátrico. → presente: Algunos delincuentes, a mi juicio, deben entrar en un psiquiátrico. / P の設定：不可 / condicional との置換：可

非過去の事態に言及した imperfecto では presente による置換は可能だが，既定の過去時 P の設定は不可能となる。すなわち，純粋の婉曲用法となる imperfecto の問題点はその P をいかに設定していくかにあるのである。また，非過去の imperfecto には condicional に置換できるものとできないものがあったが，この違いが何に基づくのかも問題である。次節では，これらの点が山村 (1996) の枠組みでどのように解釈・分析されるのかを見る。

3.3. 非過去の事態に言及する imperfecto の分析

純粋の婉曲用法となる imperfecto の問題は，その P をいかに設定するかという点にあるが，それに対して，本稿は次のような解決策を考えている。

今，基準時を考えるにあたり［±発話時 (=O)］という素性を仮定するならば，imperfecto の基準時 P は［−O］となる。この［−O］は，［+O］が territorio actual を形成するのに対し，territorio inactual という仮想領域を形成すると解釈することができる。この解釈の妥当性は，22) のような条件文の帰結節に imperfecto

が出現可能であるという事実によって支持されよう。

22) Si me encontrara con ese hombre, le diría/decía un par de verdades que pienso sobre él. (Gutiérrez Araus 1995:46)

つまり，非過去の事態に言及する imperfecto のうち condicional によって置換可能なものは，文脈から推定される仮定条件をその P と見なすことができるのである。そうすると，先に見た16) は次のように分析されることになる。

16) Quería/Querría una chaqueta de piel.

= [Si fuera posible], Quería/Querría una chaqueta de piel.

16) では si fuera posible という仮定条件が P として設定され，imperfecto で表された事態はその P に対して同時関係を示すと解釈される。この時注目すべきは，この仮定条件 P に対して同時関係を示す quería~. と condicional の querría~. の間に大きな意味の違いがないという点である。以上のような操作を仮定するならば，condicional に置換されない imperfecto 文，逆に，imperfecto に置換されない condicional 文の説明も可能になる。

6) Buenas tardes, ¿ qué #desearía usted ?

= Buenas tardes, [si fuera posible], ¿ qué #desearía usted ?

17) Me #gustaba hablar con usted.

= [Si fuera posible], Me #gustaba hablar con usted.

6) が condicional に置換されないのは，上の分析に明らかなように，そうすると実際の発話状況と矛盾することになってしまい，結果的に聞き手に対して失礼な発言となるからである。他方，17) が imperfecto に置換されないのは，それが発話時における話者の好悪は表しても，対応する condicional 文のように，その願望を表すことはできないからと思われる。

しかしながら，非過去の事態に言及する婉曲の imp. のすべてが上のような仮定条件を設定した上で出現したとは考えにくい。とりわけ，condicional に置換できない当該文に前述の仮定条件を設定することは全く妥当性を欠いたものとなろう。それでは condicional に置換できない婉曲の imp. はどのように分析されるのか。この問題について本稿は次のように考える。すなわち，当該 imperfecto 文では，丁寧さの表出のために直接的表現を回避したいという話者の語用論的要請から，基準時が発話時から仮想領域 P にシフトされ，合わせて当該発話行為もその仮想領域において展開すると仮定されることになると解釈するのである。

¿ Qué desea usted?

=[+O]oV ⟶ [−O]oV

=[+O](qué desea usted) =[−O](qué desea usted)

={yo digo}(qué desea usted) ={yo decía}(qué desea usted)

=¿ Qué deseaba usted ?

¿Qué desea usted ? は発話時（=[+O]）を基準時とし，それに対して同時関係にある事態を示したものである。しかし，その基準時が上図のように [+O] から [−O] にシフトされると，それは [−O] に対して同時関係を示すことになるため，結果的に，¿ Qué deseaba usted? という形で表出されることになる。この時重要なのは，[−O] という仮想領域に置かれるのが {yo decía} によって示される発話行為自体という点である。つまり，婉曲の imp. が持つ丁寧さのニュアンスとは，話者が自分の発話行為を現実の発話場面とは異なる仮想領域 P において展開するものとして提示することによって生じるものなのである。

以上，非過去の事態に言及する婉曲の imp. の P がどのように設定されるかを検討してきた。その結果，文脈から推定される仮定条件を P の代用とする案と，話者の語用論的要請から臨時に設定される仮想領域を P として導入する案が提起されることになったが，これら二案は決して排他的なものではない。どちらの案を取ったにせよその結果である出現形式は同じ imperfecto となるからである。このような観点からすれば，condicional に置換可能な imperfecto のためだけに特別な仮定条件 P を設定する必要はなくなると思われる。確かに，婉曲の imp. の中には condicional に置換できるものはあるが，そのことが当該事態の imperfecto による表出の決定要因となっているわけではないからである[3)]。以上のことから，本稿は，婉曲の imp. とは，丁寧さの表出のために直接的表現は避けたいという話者の語用論的要請から，その発話行為自体が発話時の代用として臨時に設定された仮想領域 P において展開するもののように提示される表現であると考えることにした。この結論は，imperfecto が過去時に言及するか否かは，その出現に不可欠な既定の過去時 P がいかに設定されるかという問題に他ならないとする見解に基づいたものであるが，この考え方からすれば，従来 imperfecto の例外用法と言われてきた婉曲の imp. も，結局は，その基本的機能 PoV が語用論的に拡大されたものにすぎないということになる。

4. 結　論

これまで考察してきたことは，次のようにまとめられる。

① 婉曲の imp. の実態は，従来のアスペクト的観点，時間関係的観点のいずれによっても十分に説明されない。

② 婉曲の imp. が生起するメカニズムは，imperfecto を presente の基準時が既定の過去時 P にシフトしたものと考える山村（1996）の枠組みによって説明することができる。

③ 婉曲の imp. では既定の過去時 P がその語用論的代替である仮想領域 P として設定されることになる．この仮想領域 P の導入により，話者の発話行為は実際の発話時とは異なるいわば非現実の場で展開するもののように理解されることになり，それが婉曲の imp. に特有の丁寧さの表出につながると考えられる。

注

＊本稿は第43回日本イスパニヤ学会（1997年10月19日，於関西外国語大学）において同題目で発表した内容に修正を加え発展させたものである。

1）Cf. Gutiérrez Araus (1996), p.332. Porto Dapena (1989), p98.

2）例文中の # は当該形式を用いることが文脈上不適切であることを示す。

3）このことは6），15）で見たように，婉曲の imp. が必ずしも condicional に置換できるわけではないという事実に依っている。

参考文献

Fernández Ramírez, S.(1986): *Gramática española 4. El verbo y la oración,* Arco/Libros S.A., Madrid.

Gili Gaya, S.(1979): *Curso superior de sintaxis española*, Bibliograf S.A., Barcelona.

Gutiérrez Araus, M.L.(1995): *Formas temporales del pasado en indicativo*, Arco/Libros S.L., Madrid.

——— (1996):"Relevancia del discurso en el uso del imperfecto", *Revista Española de Lingüística*, 26, 2, pp.327-336.

Porto Dapena, J.A.(1989): *Tiempos y formas no personales del verbo*, Arco/Libros S.A., Madrid.

Rojo, G.(1974):"La temporalidad verbal en español", *Verba*, 1, pp.68-149, Universidade de Santiago de Compostela.

山村ひろみ(1996):「canté/cantaba のアスペクト対立に基づく解釈をめぐって」『イスパニカ』40, pp.48-62.

〈Resumen〉

Sobre el imperfecto de cortesía y modestia

YAMAMURA Hiromi

En los usos del imperfecto del español, hay uno que se llama "imperfecto de cortesía y modestia". Este uso es muy peculiar en el sentido de que se refiere a la situación del presente usando la forma del imperfecto. Nuestro trabajo tiene como objetivo observar sus situaciones reales e investigar el mecanismo por el que tiene lugar este uso. El resultado se resume como sigue:

- Las situaciones reales del imperfecto de cortesía y modestia no se pueden explicar suficientemente ni por la interpretación aspectual ni por la interpretación temporal del imperfecto.
- El mecanismo por el que tiene lugar el imperfecto de cortesía y modestia se puede explicar aplicando el esquema teórico presentado por Yamamura(1996), según el cual el imperfecto se considera como equivalente al presente cuyo eje temporal se traslada al determinado punto del pasado.
- El mayor problema del imperfecto de cortesía y modestia, que es cómo establecer el determinado punto del pasado que es indispensable para la expresión de una situación en el imperfecto, se soluciona introduciendo el territorio inactual que puede considerarse como un sustitutivo pragmático del determinado punto del pasado.